一 みな人衣裳はたゞ此織物をもて文綾なとは何様もさぞ見え
ぬるそのみな同じ事なる也されどもまことにはみな下も兼
此事なれば私にも平絹うちものを用ゐる也又うち
ぎぬは織物也八月のころ迄女房五節の童女は織物を用ゐる
内裏中にて着るは織物綾等ばかりを用ゐる也

一 うちいでの袴などおなじとは不可然事也

依右金吾基春卿所望下愚筆記可禁外見也

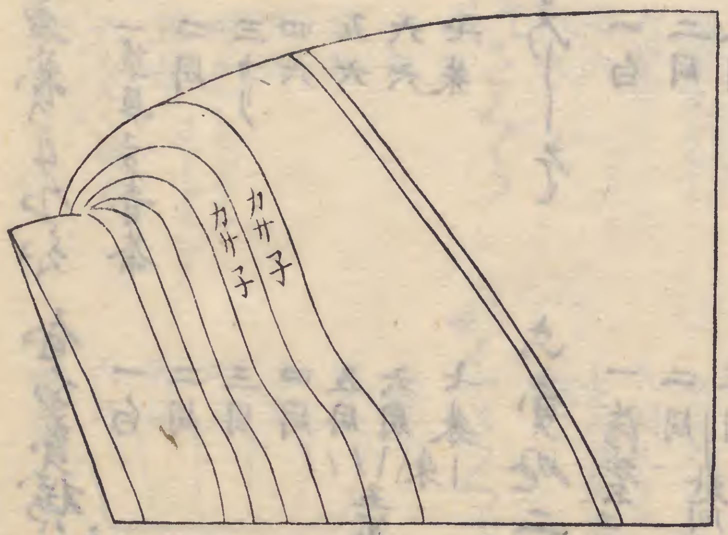
永正三年春日　従一位

右女官飾抄以松岡辰方本書寫挍合畢

曇花院殿装束抄

一 五ツ衣単色目事

くれなゐのうす様



一朱
二朱
三丹
四蘇紅梅
五白
六白
七白

むらさきのうす様

一紫
二紫
三薄紫
四白むらさきにも同じ
五白
六白
七白

紅梅の匂ひ 是は紅梅とも

一紅梅
二同
三そんうすく　紅梅不
四朱
五朱
六朱
七六　そんカサ子

[illegible]

一 草具コク青茶
二 同
三 カリ
四 六
五 六
六 六
七 朱

[illegible]桜 うら色

一 白
二 同
三 同
四 同
五 同
六 同
七 朱

朱 五筋アサギニテフチ取六

[illegible] 梅重

一 白
二 同
三 朱 少ウスクニノ方カサ子
四 朱 又コク
五 朱 又コク
六 朱 極朱
七 六

雪のした

一 白
二 同
三 同
四 朱 ウスク中
五 朱 極緋
六 朱 ウスク
七 六

[illegible]二色

一 薄紫エング
二 同
三 同 ─ 紫ノ筋ハ紫ニテフチ之
四 黄 ─ 同彩
五 同
六 六
七 六
八 朱
紫四ハ白シ

同 [illegible]

一 紫
二 薄紫エシ白シ カク
三 同
四 白
五 同 ─ 二筋紫フチ六
六 六
七 六
八 朱

同色

一 薄紫エング
二 同
三 同 ─ 紫フチ六
四 朱
五 六 ─ 朱ニテフチ六
六 黄
七 朱
八 朱

[illegible] 又[illegible]

一 白
二 同
三 同
四 蘭紫上ノカタヘカサ子
五 同又少コシ
六 紫
七 六
八 六

一 六
二 六
三 六
四 ウルミエンチノク クロミヲサシテ
五 白
六 ウルミ同右
七 朱

[illegible]

一 紫
二 同
三 薄紫 ─ 六
四 同又少ウスク ─ ス
五 同又ウスシ ─ チ
六 同又ウスシ ─ 白
七 同少紫ニホヒ ─ ニ
八 六 ─ テ六

一 紫
二 同
三 同
四 同
五 同
六 同
七 朱
白フチ取

[illegible] 山[illegible]

一 朱 アカ紅之
二 同 コク少各メアリ
三 丹
四 黄
五 六
六 朱 コク紅之
七 朱

[illegible]

一 紫
二 同
三 ウス紫成程 ウスク白メカチニ
四 同
五 六
六 六
七 朱

[illegible]

一 丹
二 同
三 紅梅ウスシ
四 丹
五 キ
六 キ
七 六

六
二 同 ─ 朱常ノフチ
三 同
四 キ ─ 朱アリ 常ノ一倍
五 朱
六 同
七 同

国立公文書館
National Archives of Japan

ゆふかほ はなのひもたへ もんきう

一キ
二同
三同
四丹
五同
六同
七朱

かきつはた みち

一六
二同
三同
四キ
五丹
六同
七朱

うのはな

一白
二同
三同
四キ
五六
六同
七朱

松かさね

一紫臭 エンクツ心斗 アカミサス
二同
三同
四六
五六
六六
七朱

もゝちとり
もゝこ

一萌色 エンクウシ クロム心敷 [?]
二同
三同 成ほとうすく
四同
五六
六六 後一ツ上ニ 弁ノシル引
七朱

うらさゐ たまかつら

一六
二六
三六一ツ弁上引
四白
五朱
六紅梅 オウトモセ テククく
七白

はつしもあけ 紅の糸

一朱
二同
三同
四紅梅タンク
五六
六六 弁シル引
七白

花あやめ ひとつ[?]

一朱 肉皮引 [?]
二同
三同
四白
五六
六六 弁サシル引
七白

あやめ [?] ひとつ

一紫 中ウスシ 成程スコシコン
二薄紫エンク
三同
四白
五白 二筋六
六朱

一 みつしたなのおきものの事（御厨子棚 置）
上のちかひにはてはこをおく（層 手筥 許）
二ちうめに火とりちんはこをおき物にはかうろをおきて（層 取 沈 筥 薫 壺 盆 居）
きやうし ひはし かうはし はいおし かうはこ そのわきにたんさく（香匙 火筋 香箸 灰押 脇 短冊）
さうしふみはこ（筥 文 箱）
下のちかひにはすゝりはこうすやうのかみをうへには（層 硯 薄様 上）
あるまじく候へならへおくへし（並）
一 くろたなのおき物の事（黒 棚 置）
上のちかひにはひとつ（層）
二ちうめにはすゝりはこのかくのあかき もとゆひのかさはさきのちかひに（角 赤 元 結 筥 脇）

御はくろのはこわたしべにさらのうすやういろこそ
はすかみにわしのかみうへにふんちんをく
一 こそでのあけやうの事
女ばうおとこハかはりあはせましてかさねハひとへを
とちあけ十かさねかさねへあはせてはあけつゝ
かさねはたとへハとちゆくあけてに入候
一 女ばうのこそであけての事
三月一日より二ある
四月一日よりもあはせ廿二つ日よりしまき
五月五日よりすゝしうら

六月一日よりまたすゝし
九月九日よりも二たまにくがいには三あつか
十月一日より三あつ
一 こうばいぬきしろハ正月より廿八廿八の春まきそれ
いはくもこのゑんにそちるはか
一 かうしかのひきハ早そくよろ二十すちまてそれ
一 ひめ宮の御所一の尼ときみよりどんげいんおひともへまいらせ
やすおし御返事
一 おしのゝそりの事をといあひのまゝそれはしらるゝいま
さねもんをよそはゆきのこにとうあいもさいはすれ

大ぶら如くそ急かたとに九つまそし八入はかんとまるかしれも
ひまつくせくおーのあーとかしゆ物まそはる見ゆ事
よきお前くそ八此こきつれも前流如もん志つ申まそ
一ぬひ物也細かそ八下まつくはらく大しとの
よら前八かく見さるとん如んのやうにはつ仕る上縫八
然しはゞ然はつ能前まむきとも如ものくる前
てはとこきつは清紙
一ぬひ表のつら入ま縫の物と仰忍の縫のくそ然しはそ
かんくらつまも縫の物めしはゞむきさまの事二縫も
物八いく小きくは

一ぬひ物の下にわたあ物乃事
きよいふん縫り上よつこうさいなよのきらくひかるくは
そく此下には物も然物まそ入くる
一かはらのうみとぬ八あつこう小西にもはゞくさうせうハ
入はまつきよう御出され申はきて縫の物のうへま
ぬひ物也縫し文かひきうおふしそ然し無るそは
一小袖表のゑひまきうとめし事
お前むきさ小くも思めしはゞ然よさまさいりまそは
色し御無はまれ候しか世なる一廿袖事よるくは
おそま御志んかつはまつくつとうせれそ見候まの

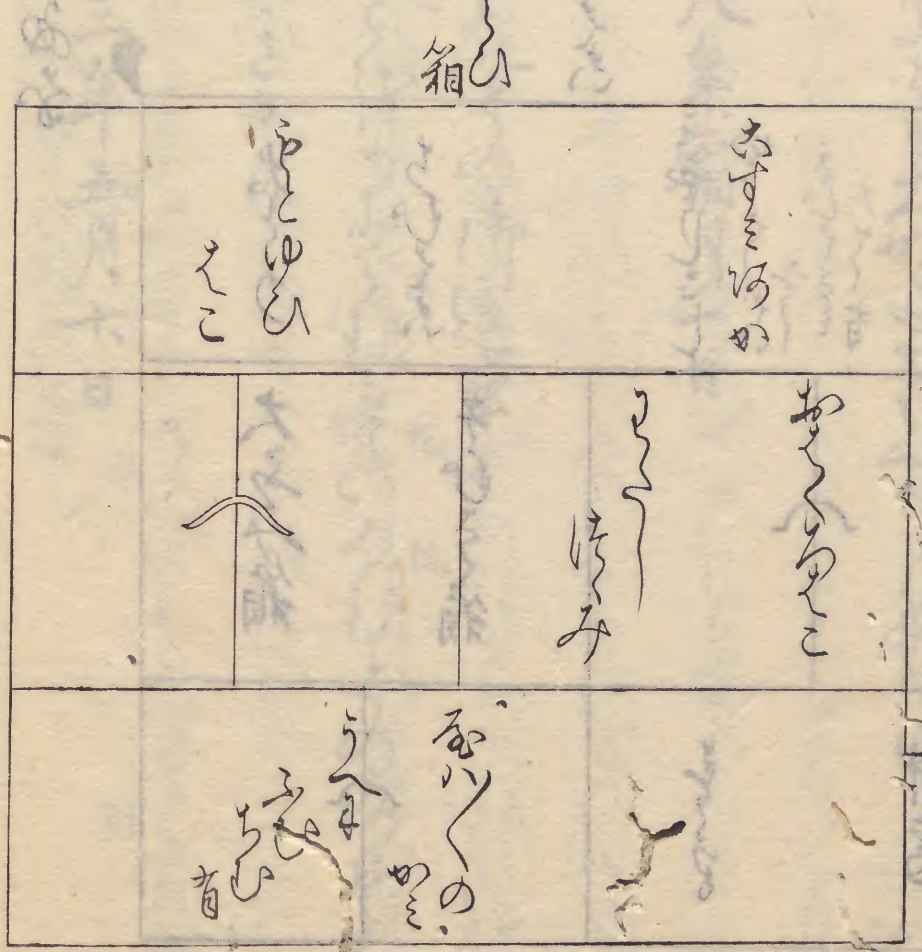
みたしかき

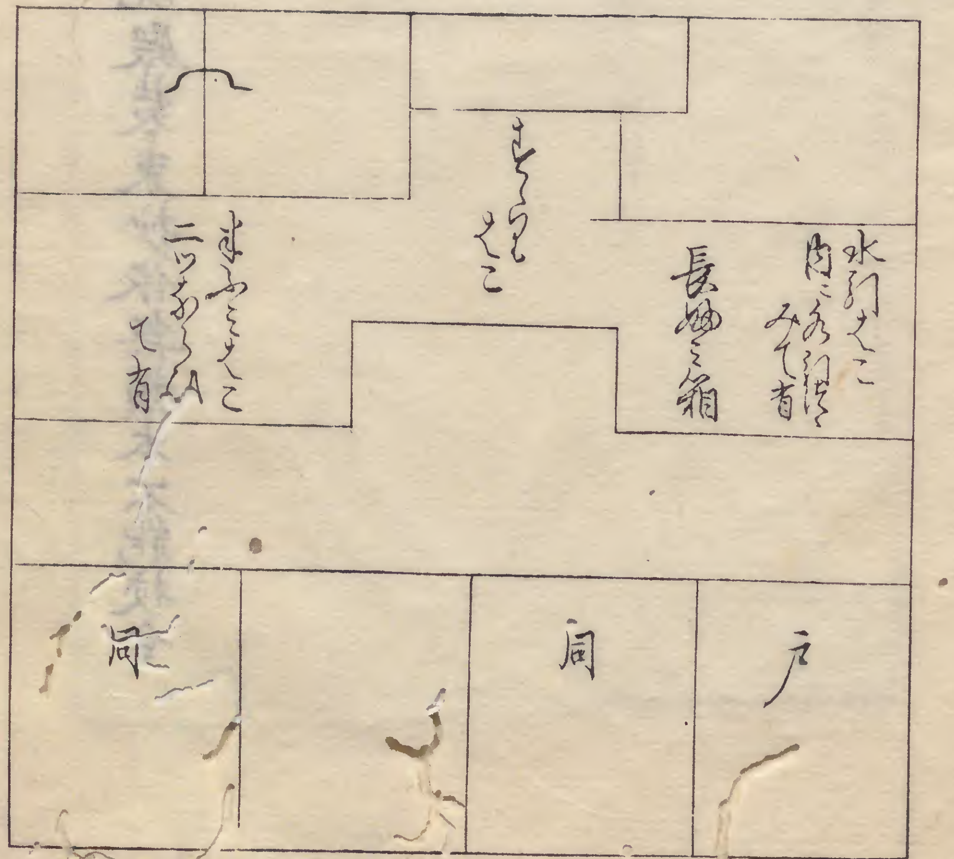
やうにみ(見)およ(及)ひはよろ川のたう(道)ちをす(捨)てまかれまする
かやうの事ともたいせつにせ(絶)んた(来)いきこんあるへく候

天文八年霜月一日

一乃せんけよりの御返事
かしこまりて候あかしそへしてん(曇)か(花)くゐん(院)のいゝたいの候ほとの
きうしなくさつかは

天正三年五月十日


箱
首


水
首
首
同
同
戸

右曇花院殿装束抄依無類本不能挍合

昌平坂學問所

羣書類從巻第百二十

国立公文書館
National Archives of Japan